

第4章 小金井ボランティアセンターの活動の概要 小金井ボランティアセンター活動総括

小金井ボランティアセンター長
渡部 靖夫

小金井ボランティアセンターは、法政大学学生の精神的向上とピアサポートを基本にし、小金井キャンパス周辺の地域との連携も考えたボランティア活動を目的にしている。

活動目標としては、①ボランティア活動を行う学生スタッフの継続的募集、②当面行える社会的なボランティア活動の実施、③地域を中心とした（根ざした）具体的活動を検討することである。在学生に小金井ボランティアセンターの存在を知ってもらい、今後の活動に参加してもらうこと、そしてスタッフとなって経験を積んでもらうことをあげている。

小金井キャンパスでは、2011年の東日本大震災に伴うボランティア活動が落ち着いた後、しばらく活動が限られたものになっていたが、2015年度以降、小金井キャンパスの学生のスキルや特技を活かした、地域に対するボランティア活動実施等の検討に着手した。その結果、2016年度における具体的活動としては、①11月に「介助犬とのふれあいから障がい者にとっての優しい社会を考えよう！」と題して小金井キャンパス初の講座を開催した他、②同時期の小金井祭・工学展で、地元子供達を対象にした工作教室・紙飛行機教室・人工イクラ生成・「不思議な水」体験教室などを開催した。また、③地元に対する貢献として、「農業サークルめぐり」が小江戸東京野菜を育てる地元農家の支援なども行った。

今後とも学内外にボランティアセンターの情報発信を行うとともに、これらの活動を支援・発展・拡充させていきたい。

事業名：ボランティア講座 介助犬とのふれあいから、障がい者にとっての優しい社会を考えよう！

プロジェクト：ボランティア支援プロジェクト

日時：2016年11月17日（木）16：50～18：20

場所：小金井キャンパス 遠隔・視聴覚室（西館1階）

概要：

1. 内容

小金井ボランティアセンター主催のボランティア講座「介助犬とのふれあいから、障がい者にとっての優しい社会を考えよう！」を実施し、10名が参加しました。

2016年4月より障害者差別解消法が施行されました。障がい者の方々の社会参加と自立を促進するための法律です。このような社会の動きを背景に、本学学生の皆さんに障がい者の方にとっての優しい社会とは何か、私たちができることは何かを考えるきっかけ作りとして、本企画を実施しました。

当日は、社会福祉法人 日本介助犬協会の職員2名と介助犬PR犬1頭に本学に来校いただきました。日本介助犬協会職員の方より、介助犬を取り巻く法制度、介助犬が生まれてからリタイヤするまでの育成過程や、介助犬の訓練についてお話いただきました。その後、介助犬PR犬による「床に落ちている硬貨を拾いあげる」「冷蔵庫からペットボトル飲料を持ってくる」「靴や靴下を脱がせる」「会場内に隠した携帯電話を探してもってくる」のデモンストレーションがありました。

介助犬を理解すると同時に、介助犬を訓練する訓練士の方々の「障がい者を支援したい」という熱意に触れることができ、大変有意義な講座でした。

協力：社会福祉法人 日本介助犬協会

2. 参加者数

10名



期待する効果・狙い：

・本学学生に障がい者にとっての優しい社会とは何か、健常者ができることは何かを考えるきっかけ作りとして実施。